

井上さとし・もとむら伸子さんが迫力の訴え

江南で日本共産党演説会

参院選が迫った6月16日、江南市民文化会館で井上さとし参議院議員ともとむら伸子さんを迎えた日本共産党演説会が開かれ、会場は参加者であふれました。

もとむらさんは八田ひろ子元参議院議員の秘書として6年間、自民党政治と対峙し、働く人たちの労働条件の改善や、平和・暮らしを守って必死でがんばる日本共産党の国会議員の活動を支えた体験を語り、この大事な議席を取り戻したいと必死の訴え。

井上さとし議員は、成立した「成年後見制度を受けている人の選挙権の回復」を「最近の最も嬉しいこと」と紹介。この問題は日本共産党の先輩議員が早くから取り組み、井上議員が引き継いで取り上げてきた。当事者の方たちの勇気ある



行動で裁判に勝利し、その結果反対していた自民党の議員なども賛成し、実現することができた。投票する最も大切な権利も闘ってこそ守られたこと、暴走するアベノミクスにストップをかけ、消費税増税NO! 原発ゼロ! 憲法九条守る願いを日本共産党の躍進へ! と迫力の訴えに、会場から大きな拍手が沸き起こりました。



6月議会終わる

江南市議会6月定例会は25日に閉会。

市役所庁舎東側に建設する(仮称)地域防災センター事業費4億5,313万円、本庁舎耐震補強工事(H25年度分)1億3,130万円等補正予算など10議案を可決しました。

「緊急事態基本法の早期制定を求める意見書採択の請願書」が提出され、継続審査となりました。(委員会審査で党議員団は不採択にすべきと主張)

一般質問は18議員が登壇。日本共産党議員団は新ごみ処理施設問題についてそれぞれ当局の姿勢を質した他、市民から寄せられた願い実現にがんばりました。

新ごみ処理施設、市民全体で総合的に議論を

6月議会・党議員団のごみ問題についての一般質問概要をお知らせします。

地元説明会をなぜ非公開にするのか

説明会のあり方、「候補地選定の経緯や広報がフェアでない」との住民の批判にどう応えるのか、北浦地区は木曽川左岸公園基本計画(B地区)があるところで市は住民に公園の早期整備を約束してきた経緯があるが、どうするのか質しました。

市当局は、「今後の説明会は報道関係者、市議に限り傍聴を認める」「広報こうなん5月号は事実のみを掲載したもので、情報を作作的に操作したものではない」と答弁。公園については「ごみ処理施設建設にむけ目途がついた段階で、公園基本計画などの見直しが想定されるので、内容について地元と調整していく」などと、新処理施設への同意と引き換えに公園整備を進める可能性を示唆しました。

ガス化溶融炉、灰溶融炉しか選択肢がないが

広域化実施計画には焼却残渣の埋め立て処分場の記載がなく、ガス化溶融炉か灰溶融を行う処理方式しか選択肢がないのは疑問であると質しました。市は「新しい最終処分場の確保は困難で、基本方針として残渣の有効利用、再資源化ができる施設をめざすが、現時点では方向性は出ていない」と答弁。

廃プラ燃やしていいの? PFIで大丈夫?

現在分別している廃プラまで燃やすごみに含めて新施設の規模を算出していたことが判明。また、PFI方式でのごみ処理施設整備の問題点を指摘し見解を質しました。市は「日量236トンが最大規模で、今後規模を縮小していく。犬山市は廃プラを可燃ごみにしており統一が必要だ、方向性は出ていない。」「PFI導入可能性調査を行う」と述べました。



候補地評価の具体的数値を示せ

候補地選定では具体的で客観性ある根拠が必要。土地の造成のしやすさ、用地確保のしやすさなどは数値で示すべきと質しました。市当局は「中般若北浦の造成費用が他候補地より高くなることは明らかだが、費用の比較検討は実施していない」と答弁。この点でも評価項目の欠落が判明しました。

大口の現施設、平成30年までとの協定なし 基幹補修工事を実施したばかり

現在の施設は老朽化し、平成30年までしか使用できないと考えている人もいるがどうか。また平成30年までとの協定書などはあるのかと質しました。市当局は「協定書はない。平成21年から23年にかけて基幹整備補修工事を行っており、新ごみ処理施設の稼働が2~3年遅れてもクリアできると考えている」と答弁しました。

学習等供用施設に網戸の設置を

「省エネが強調されているときに、窓をあげようとすると蚊や虫が入ってくる。学供にも網戸をつけてほしい」との要望がありました。学供は、防衛庁の防音対策事業としての施設なので、防音効果が損なわれないようであれば市の判断で付けることはできるとのこと。今後検討していくとの答弁がありました。